



国土交通省道路局長 様

中建発第 7号
平成19年4月19日

中之条町長 入内島 道隆



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

陽春の候、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃から道路事業につきまして、ご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先日ご依頼のありましたこのことについて、別紙の通り「道路政策に望むこと」として、上信自動車道を中心として感じていることを述べさせていただきました。

今後とも、ご指導頂きますようよろしくお願いをいたします。

道路政策に望むこと

嘗ては道路建設にともなう経済波及効果が高く評価され、最も有効な財政出動の一つであり、花形であった道路建設が昨今は無駄な支出の最右翼のような世論が形成されている。しかし、実際はどうかを冷静に判断すべきところではないだろうか。

現在地方自治体は財政的に非常に厳しい中にあるが、道路政策の多面的役割を考えたとき、社会福祉と同様に欠くべからざるものと認識している。そのことは町の予算の中においても明白であるし、依然として道路関連の陳情が一番多くの町民から寄せられていることから確かなことである。

さて、現在わが町のもっとも緊急かつ重要な問題は医師の確保についてであります。新臨床研修制度の実施にともない、地方の医師不足は極めて深刻である。特に産科・小児科医師の不足にともなうこれらの診療科目が病院から消え、地域での子育ては困難を極めてきている。しかも、この状態は今後改善の見込みもなく、さらに悪化の状況である。しかし、地方にあっても人が生活している以上、困難であっても解決していくべき問題である。

第2次医療圏でさえ医師が確保できない吾妻地域の現状に鑑みた場合、如何に迅速に第3次医療圏に緊急患者を輸送できるか否かにすべてがかかって来てしまう。吾妻郡内では救急車により搬送される患者の、実に一割以上が郡外の医療施設へ搬送されている。群馬県下で唯一高速道路網が通っていない吾妻郡において、尚かつ医療体制ももっとも劣悪な状態にある地域にとって高速道路網はまさに生命線であります。もはや道路は快適に車を走らせるという側面だけでは捉え得なくなっているのです。

現在、この高速道路網である上信自動車道は群馬県が掲げる「幹線道路乗り入れ30分構想」のもと進められてはいるものの、現状の工事進捗状況はとてども私たち住民が望むペースからはほど遠く、国土交通省による直轄整備路線としてより集中的な財源投下をお願いしたいところであります。こういった状況を踏まえて頂き、道路財源の拡充強化を望むところです。

また一方で、効率的な道路施策という点から、上信道の全線を新設ではなく、既存の国道も利用した形で、暫定的に早期開通を望むものであります。財政的負担の軽減はもとより、既存の国道を利用することで、既存の商店街等の衰退を回避することができる。特に中之条町・東吾妻町のバイパスには新興商店街

区が形成されており、これらの街区が新設された上信道の開通で衰退するようでは両町の発展に負の要因になりかねないため、慎重に計画作成して頂きたい。また、それは将来の両町の一体化が図られたとき、この既存のバイパスの整備がより重要となってくるのであります。

地方の交通網と都市の交通網の決定的な違いは、公共交通機関の整備の違いにあると言わざるをえません。都市部はバス・電車・地下鉄等の充実により自家用車がなくても十分生活可能であり、交通弱者に対する配慮も行き届いていますが、地方においては公共交通機関が貧弱であり、自家用車社会そのものである。地方での自家用車の役割は日常的な通勤はもとより、こどもの学校への送迎、家族の病院への送迎といったことで生活の一部になっているのが現状であり、一家に一台ではなく、一人一台でなくては生活できないのが現実であり道路網の安全確保・維持管理の重要性は住民から今後益々強調されるところであります。

以上、道路政策について常日頃感じていることの一端を申し上げましたが、都市部に比べ、自動車により依存している地方は、結果として自動車関連の諸税を都市部より多く納税している現状（世帯あたり東京の4倍）を考えたとき地方の道路政策を再考し、強化して頂く必要を強く感じますし、道路特定財源の見直しが地方にとっては生命の存否にも直結していること、目的税という税質上からも一般財源化を現状の税率で行なうことは国民の理解を得がたいこと、を申し上げ、意見と致します。

平成19年4月19日

群馬県中之条町長 入内島 道



中期的な道路計画について

群馬県中之条町

< 凡 例 >

- 上信道整備計画ルート
- 既存路線利用ルート
- 🏥 第3次医療施設
- 🏪 新興既存商店街



◎上信自動車道は、吾妻地域から第3次医療施設へのアクセスが向上し、安心な暮らしを支える道路となる。

◎異常気象時には、通行規制となる吾妻川沿いや、急峻な崖下の道路から、災害時にも安全で信頼性の高い道路となる。

◎既存道路を暫定利用することにより、沿線の既存商店街の衰退が回避できることで、地域の活力を支える道路となる。

県立小児医療センター

前橋赤十字病院

2.0km